



9月にをいかけ強調 まず元気な挨拶から

7月大教会教会長会議
立教186年7月22日
大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R230725-0728-10
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ 午前6時00分
夕づとめ 午後7時00分

9月は「にをいかけ強調の月」です。三年千日の教祖年祭活動が始まって最初の強調月として、今までよりも一つギアを上げて、一ヶ月間しっかりと歩ませて頂きたいと思っています。ある布教の家の先生より聞いたお話をご紹介したいと思います。コロナ禍の最中、布教の家は閉められたのか。そんなことはありません。その布教の家は、コロナ禍であっても布教師が毎日布教に歩いていました。しかしながら戸別訪問がはばかれる中、何をしたのか。それは近所のお掃除を毎日続けたそうです。掃除をするとき心掛けたのは、通りすがりの方に挨拶の声をかけることでした。最初はほぼ反応はなかったのですが、毎日同じ時間に同じ場所でのきしんをしていると、同じ人が歩かれる。そこで挨拶を続けていると、何も反応がないところから、会釈の次

は「おはようございます」と返事をしてくれるようになった。次第に会話を交わせるようになった。会話が始まったらどうなったのか。お互いの話をするようになり、信頼関係を築きながら、「天理教とはどのような教えですか」と向こうから尋ねてくれるようになったそうです。結果として、コロナが始まる前と、コロナ禍のときは、おちばがえりの人数はほぼ同じぐらいご守護頂いたとのことでした。にをいかけと言いますと、路傍講演、神名流し、戸別訪問、これらももちろん大事なことでありますが、日々ひのきしんの態度で歩ませてください。そこが大事なのではないかと思います。

教祖と共に歩ませて頂く上からは、元気よく挨拶させて頂く。9月「にをいかけ強調の月」は元気に挨拶とひのきしんで勇ませて頂きたいと思います。次に、6月24日は親里で田植えひのきしんをさせて頂きました。田んぼの泥の中を裸足で歩き、土を足でつかむことで、「元気になった」という声を聞かせて頂きました。植えた稲は刈らねばなりません。次は10月に「稲刈りひのきしん」をさせて頂きたいと思っていますので、よろしくお願ひします。最後に、世話人の宮森与一郎先生がおつとめの稽古をつけて下さることが決まりました。これは先生のご都合で急きよ変更になることもあります。次回は9月25日午後3時より1時間、本島詰所で行います。先生より、何人でも結構と承りましたので、受講制限をもうけず、参加自由です。貴重な機会ですので、どうか大切に学ばせて頂きましょう。

(文責・本島通信編集室)

本島大教会三代会長 片山俊次 三十年祭
本島大教会三代会長夫人 片山コズエ 二十年祭
日時10月21日(土)午後2時執行(本島大教会)

ひながたの道を まず三日間定めて通ろう

大教会准役員
片山和信 かたやまかずのぶ

只今は、本島大教会七月の月次祭
が滞りなくとめられたことと存じ
ます。誠にめでとございます。

本日は失礼して、アメリカ・ポー
トランドからお話をさせて頂きま
す。よろしくお願いたします。

今日は『三日間のひながた』につい
てお話しさせて頂きます。

論達第四号には「成人」という言葉



(ポートランド教会にて動画収録)

が繰り返して使われています。

「仕切つて成人の歩みを進めること
が、教祖年祭をつとめる意義である」
とあります。

また教祖120年祭に向かって発布さ
れた論達第二号には、

「成人とはを、やの思いに近づく歩み
である」
とあります。

つまり「成人」という言葉からは、

親神様の思いに近づくよう、期間を
仕切つて歩むところに教祖年祭を勤
める意義がある、と理解することが
できます。

私はこの三年千日、何を目標に、
どのようにつとめたいのか、と
考えたとき「この三年間で成人する
ぞ。」これが心定めになりました。

さて、成人の姿は人それぞれで

しょう。論達に、

「ようぼく一人ひとりが教祖の道具
衆としての自覚を高め、仕切つて成
人の歩みを進めることが、教祖年祭
をつとめる意義」

とありますよう、成人の姿は「一人
ひとり」なのです。

「妻を成人させるぞ」とか、「息子
にもっと厳しくするぞ」、「近所の
うるさいおばちゃんの心を変える
ぞ！」など他人を変えることではな
く、自分の成人、自分の心を変える
ことなのです。

そうすれば私から見える相手も必
ず変わることでしょう。

赤ちゃんに向かってニコニコ笑い
かけると、赤ちゃんは同じようにニ
コニコ返してきます。

逆に怖い顔をするとき怪訝な顔が
返ってきます。

私の立場であれば、会長として、
父親として、またパートナーとして、
自分自身が成人することによって、
おのずと周囲も陽気になり、いろい
ろなことが治まってくるだろうと考
えました。

さて、自分が「成人」するためには
何をしなければいけないのか。

私の場合は、はっきりしています。

それは「癖性分」をとることです。

特に「腹立ち」の心です。私は自分自
身に腹が立つことが多いのです。

そこで、イライラしていると神様
は私に、とてもわかりやすいゲンコ
ツを落としてくださいます。

一昨年のお話ですが、ある時期ずつ
とイライラ過ごしていた私は、夕方
急いで買い物しなければならぬの
に、いつも使っている道路が渋滞
だったのでイラツとして、いつもは
使わない横道に入りました。

その時です。「ドーン！」あつとい
う間の出来事でした。

私の腕の骨が飛び出て：：というの
は冗談で、飛び出たのはエアバツ
グと保険代でした。車は廃車になる
ほどでしたが、私もお相手もありが
たいことに無傷でした。

神様は大変高額なゲンコツをすぐ
に落としてくださいました。

このように、ときおり悪い癖性分
が出てしまう私です。

私の長男はADHD(多動性障害)
で、妻は重度の難病を患っておりま
す。まったく自慢にはなりません
が、子供の大きな怪我や妻の発作で、救
急病院に行くことも多々あります。

そのように、いろいろ事情や身上

が重なると、前向きに考えられず先案じをしてしまい不安になるのです。

その私のイライラは、家族にとっても悪影響です。私の癱性分が家族の陽気ぐらしを妨げている、と言っても過言ではありません。

自分の癱性分は知らず知らず周りに大きな影響を与えますから、よほど気をつけなければいけません。

特に、教会という場所は人が集まる場所です。「あそここの教会に行きたいな」と思われるような、陽気な明るい雰囲気になければなりません。

昔、母が私に「おだやかな心になりなさい」と言ったことがあります。

その時はさほど気にしてなかったのですが、今は節目に合うと、ふと思ひ出します。

そして、うちの教会には、大教会長様直筆の「まろい心」というご揮毫があります。偶然とは思えません。

ところが残念なことに、癱性分を取り去ることは、生半可なことではありません。

何回も直そうと試みましたが、自分の力ではどうすることもできませんでした。

そこにお道は本当にありがたいと思うことは、問題に直面しても教祖

の教に必ず解決策を見つかることができることです。

稿本天理教祖伝逸話篇をたよりにしたところ、教がありましたので読ませて頂きます。

「やさしい心になりなされや。人を救けなされや。癱、性分を取りなされや。」(二三 人がめどか)

このお言葉にはいろいろな解釈があると思いますが、私は自分の努力で癱性分をとることができないので、

優しい心で、人を救けたら、癱性分をとってくれるのだと悟り、信じて行ってみることにしました。

「人救けたら我が身救かる」とも教えられます。

教祖はひながたの道を五十年間もお通り下さいましたが、おさしづでは、我々は五十年ではなく、三年間仕切って三年千日を通れば、それで

良いとお教え下さいます。

とはいえ未熟な私にとっては、この三年間を通ることすら非常に長く感じました。

心配ごとがあったり、日常生活に追われたり、まわりの勇んだ雰囲気についていけない自分がいました。

そもそも漠然と「ひながたを通ると言ってもな」と、モヤモヤしてい

ました。

そこに今年1月の大教会春季大祭で、大教会長様が「とにかくまずは三日間、仕切ってひながた通ろう」と呼びかけられました。

これは私にとってめっちゃくちゃありがたいお言葉に受け止めました。

早速「よし、考えていてもしょうがない、とりあえず三日間だけ仕切って、教祖のひながたのことだけを考えて通るぞ」と決意しました。

さて、私の友人の一人に、いろいろな身上・事情を抱えているのですが、特に異常な腰痛に悩まされてお

り、歩行器なしではなかなか歩けな

い状態の方がいます。

その人は、特別な処方箋がないと手に入らない末期のがん患者にも使われるような強い痛み止めの薬を、

長期間毎日服用していましたが、それでも痛みが治まらず、夜には強い

睡眠薬も飲んで寝ていました。

その方は無神論者だと言われるのですが、ダウン症のお孫さんを連れて、時々遠方から月次祭に来てくださいます。

ここに來てるのよ、信仰しているわけじゃないからね」と仰ります。

どんな理由であれ、月次祭には腰痛を我慢して、家族を連れて来て下さることは、ありがたいことです。

私は先ほど申し上げましたように、大教会長様のお言葉を受け、「まずは三日間だけ仕切ってひながたを通

るぞ」と決意したので、その方の家に行っておさづけを取り次がせて頂き、教会に帰ってきてからは十二下

りのお願いとめを勤めました。

心を無に近い状態にして、とにかくその方の痛みをとってほしいと願

い、三日間の時間をお供えさせて頂きました。

三日目におさづけを取り次いだ後、その方から、「パパさんちよつとお話

があるんだけど。非科学的なことがあったのよ。医者になんて説明しようかな。初日お祈りをしてくれた直

後から不思議なことに痛みが取れて、この三日間は痛み止めと睡眠薬を飲

んでないのよ。歩行器もつかっていないの」と喜びに満ちた表情と、混乱した様子で話してくださいました。

私はその変化を聞いた時、嬉しい

というか、今まで感じたことのない、何とも言えない感動を味わいました。

それからは抱えきれないほどのお供え物や料理を持って頻繁に家族や友人を連れて月次祭に来てくれるようになりました。

ある先生は「この三年千日はな、特別やで、救かる句なんやで。今がチャンスやで」と勇んでおたすけに歩かれています話も聞きました。またおさしづに、

「仕切つてすれば、思わくの道がだんく延びる、早い。」

(明治25年6月30日)

とあります。このおさしづは教祖の豊田山墓地工事取りかかりに際しいた伺いさしづですが、仕切つて取りかかることの強さをお教え下さっています。

教祖の時代、続いて我が家の信仰初代と、あの時代は到底治らないような病気がおさづけで治り、お道はどんどん広がったと伝えられています。

私はそのような次々と起こる不思議な話なすけは、おとき話に近いような感覚で人からお話を聞いたり、人ごとのように感じていました。

昔は今の時代と違って教祖はご在世だったし、人が嘘のようにたすかることもあったんだろうと、現代ではありえないことという感覚でした。

正直言って半信半疑でした。

しかし、医学的になくならない痛みでも、おさづけとお願ひづとめによつてその痛みがなくなることも、おとき話でも夢の話でもないのだと、今回のことで実感しました。おさづけを取り次ぐのは我々ですが、私達人間に力があるからではありません。

17歳の新ようぼくでも、50年のベテランようぼくでも、私たちはみんな教祖の道具衆として、昔も今もこの先もこの世界がどれだけ変わっていても、真実の心と真実の行いさえかみ合えば、あとは親神様がお働き下さる領域で働いて下さることを知り、感激いたしました。

論達第四号に「親神様は真実の心を受け取つて、自由のご守護をお見せ下される」とお示し下さっています。

不思議なことに、たった三日間でも全力で、ひながたを心の定規にして通れたことにより、「次の三日間いくぞ」「よしまた行こか」というエネルギーが自然と湧いてきました。

さらにそのエネルギーあふれる心持ちが、ちょっとした習慣になりました。おさしづで教えられる、

「たったの三日や、三日の間の道を通れば良いのや」

(明治22年11月7日)

とのお言葉の意味は、こういうことなんだなと気づきました。

例えて申せば、自転車の漕ぎ始めは力が必要ですが、一旦走り出すと楽に前に進むことに似ています。

とはいっても、なかなか漫画のようにはすぐ癖性分が取れるわけではなく、壁にまたぶち当たり、そこからは自分との戦いになります。

論達第四号に「ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていく」とありますように、救いたいという心を習慣にしていくうちに、薄紙をはぐように癖性分が取れていき、いろいろなことが少しずつ治まっていくのだと、自分の中で悟っています。

もう一つ不思議なことがありました。友人の痛みが取れた喜びと勢いで調子づいた私は朝のおつとめで「また何かおたすけができる場面がないかな」と願ってみました。

すると、高速道路で荷台から大きな荷物を落として困っている人。階段から落ちて救急病院に連れて行ってほしいという隣人。夫婦関係がう

まく行かないので仲をとりもつてほしいという人など。不思議にも、おたすけを求められる場面を次々見せられるようになりました。

そんなに大きなことはできませんが、「なにか困っている人が居ないかな」とアンテナを張っていると、その心は天に届き、すぐにその場を与えてくれるんだと、驚くことがいっぱいの数か月間でした。

最後に、本島大教会成人目標に「成人に向けて互いに励まし合ひましよう」とあります。

私は「成人に向けてまずは本島に つながら兄弟姉妹が互いに励まし合ひましよう」という意味だと受け止めています。

勇めている人、勇めていない人。喜んでいる人、喜べていない人。天理教が好きの人、天理教が好きじゃない人。いろいろな人がいます。

おふでさきに、
をやこでもふうくのなかもきよた
いも みなめへくに心ちがうで

(五号8)

たとえ親子でも夫婦でも、また兄弟姉妹でも、一人ひとり心は違うと教えられます。

教祖はどんな人にも分け隔てなく

平等にたすけの手を差し伸べられ
ました。

勇める人だけがすごいのではなく、
勇めていない人や、元気がない人に
勇んでもらえるように手を差し伸べ
る人が、教祖が本当に喜んで下さる
人ではないでしょうか。

本島につながる人々を見渡しても、
幼馴染や同級生、鼓笛隊の旧友、ま
た昔お世話になったおっちゃんおば
ちゃん、身近なところに元気がない
人、勇めていない人がいます。

この三年千日は、そういう人に、
どんどん手を差し伸べることも大事
ではないかなと心から思います。

はじめに申し上げましたように、
私は「三日の道を通ればよいのや」と
いう言葉でスイッチが入りました。

もし、三年千日を通る上でなかな
か力が入らないという人がおられる
なら、まずは三日間仕切って、全力
でひながたの心で通ることをお勧め
いたします。

きっとこの三年間の景色が変わる
はずです。実行しれないと思ってい
ます。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

ろくぢ会 (立教186年6月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・
香葉子・幹太郎・好次・昇太△片
山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太
分教会 ▼本樺△大上ほの香・は
る香・太吉 ▼本浜△片山清枝・
正枝・誠 ▼攝泉分教会 ▼崇
徳分教会 ▼本高分教会 ▼ポ
ランド△片山和信・陽子・昇慶・
竜次
ご芳志に厚くお礼申し上げます

大教会長動向

▼8月(予定)▲

7月27日～8月6日

こどもおちばがえり

21日、少年会本島団

夏のつどい

22日、大教会月次祭執行

24日、修養科総立まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

30日、本幸山分教会

会長就任奉告祭

以上

布教部報告(7月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字は今年1月からの報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいかけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

統計(6月1日～30日)

教会名	初席	中席	喜ひ壇	修養科	教人講習	検定講習
本千代	1					
本花				1		
本南		1				
雄福			1	1		
大隅			1			
吉松	1					
鶴峰	1			1		
合計	3	1	2	3	0	0

にをいかけ名簿提出教会(7月)

樺太	6	本千代	7	赤峰	7
本田	1	本千治	3	雅峰	5
本倉岡	7	本千恵	3	吉峰	4
本樺	7	攝津	3	神峰	3
本室	7	本萩	2	豪峰	7
渋谷	6	安藝本中	2	倉峰	7
代々木	5	本備前	6	大雄峰	2
本都	7	本迪	2	栄森峰	6
本京	7	本府中	7	栄東峰	7
本護	4	沖浦	2	霊峰	7
本恵	4	本清水	4	實峰	6
本恵明	4	崇徳	7	大隅聖峰	1
本静濱	2	与島	4	大英峰	2
本静森	3	本宣道	7	肥後八峰	3
本日米	4	本陽山	7	銀峰	4
本米	3	本肥港	2	鶴峰	4
本米里	2	本千嘉	1	仙峰	7
本米浜	1	本新田	6		
計 53 教会		400 名			

おさづけ取次報告教会(7月)

本島	6	本米里	2	本宣道	2
樺太	6	本米浜	3	本陽山	7
本田	1	本千代	7	本肥港	3
本倉岡	7	本千治	2	本新田	3
本陸奥	3	本千恵	4	赤峰	7
本樺	7	本平濱	6	雅峰	5
本室	7	攝津	6	豪峰	6
渋谷	6	攝泉	4	倉峰	7
代々木	1	本太	3	大雄峰	2
本都	2	本萩	3	雄山	2
本京	7	本幹	2	栄東峰	1
本道	2	本水島	7	霊峰	7
本護	3	安藝本中	4	實峰	4
本三	3	本備前	7	大隅聖峰	1
本恵	4	本迪	3	大駿峰	4
本恵山	3	本府中	7	大英峰	2
本恵明	4	沖浦	2	肥後八峰	3
本静濱	2	本清水	4	銀峰	4
本静森	2	崇徳	7	新信峰	2
本日米	3	与島	4	鶴峰	4
本米	4	本廣	4	仙峰	7
本米	3	本勇	3		
計 65 教会		1,197 回			

入社祭 (立教186年7月22日)
▼雅峰△落石憲行 [計1名]

7月22日(土)
【香川県丸亀市】

天候 晴
最低気温 24.5℃
最高気温 31.5℃
平均気圧 1015.3 hPa
平均湿度 77%
平均風速 1.8 m/s
日照時間 12.2 時間
降水量 0.0 mm

修養科女子教養掛について



【婦人会本島支部】

- 修養科女子教養掛は年間36人体制で勤めさせて頂いております。
- 来年も「希望調査票」は直轄の単立教会は1教会につき1名ずつ、またご部内をお持ちの教会は自教会を入れて4～5教会につき1名ずつの提出をお願いすることになりました。
- つきましては、来年(立教187年)女子教養掛「希望調査票」を、9月22日までお知らせ下さいますようお願いいたします。
- なお、教養掛は「希望調査票」に基づいて編成いたしますが、希望調査票の未提出教会にはこちらからお問合せいたしますのでご承知おき下さい。

〈諸説明〉

- ◆女子教養掛の期間は毎月、①5日～15日、②15日～25日、③25日～翌月5日となります。
- ◆いずれの期間も、本島詰所集合です。初日朝づとめより始まり、最終日夕づとめまでお勤め頂きます。(初日と最終日は前任者または後任者との引継ぎとなります)
- ◆幼児を連れてでも可能ですので、ご相談下さい。
- ◆当番表は各所属教会の祭典日を外して決めさせて頂きますが、特に希望する期間(または支障のある期間)がありましたらお知らせください。なおご希望に添えないこともありますのでご了承ください。
- ◆お問合せは修養科世話係(原口和子 080-4312-6924)までお願いいたします。
- ◆提出先: 片山かおり支部長(大教会 FAX0877-27-3323、大教会へ郵送も可)
- ◆提出締切: 9月22日

8月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉

- 期間: 8月21日～22日
- 派遣教会: 渋谷①

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間: 8月25日～26日
- 派遣教会: 本樺①、本京①



こどもおぢばがえり開幕
4年ぶりとなる「立教186年 こどもおぢばがえり」が7月27日より教会本部で開催されました。
これに合わせて、第110回本島団鼓笛隊夏季合宿が7月26

青年会
本島分会(伊東賢太郎委員長)では7月1日と2日、



青年会夏季雅楽講習会

日より本島詰所で始まり、30日までの日程で、82名の隊員と指導員が規律ある練習を行ってまいります。
また詰所館内では趣向を凝らした「脱出ゲーム」、2階ロビーに遊びの広場を準備して子供達のお帰りを待っています。(詳細は来月号にて)

本島野球部予選突破

第50回全教野球大会に向けて、7月23日に香川県番の州球場にて香川県予選が行われ、本島野球部は1回戦、双名島大教会に14対3、2回戦は高松大教会に1対0の接戦を制し、予選を突破しました。
なお本戦の第1回戦は8月26日午後5時より親里白川グランドで行われることが決まりました。



本島詰所において「夏季雅楽講習会」を開催し、青年会員10名が参加しました。
雅楽経験者は盤渉調、初心者(ひょうしょう)は平調を主とした雅楽の習得に励みました。

事情はびび

立教186年7月、本島関係のお運びはありませんでした。

おぢげの理拝戴

(立教186年6月分)

雄福峰 田邊桃佳
大隅聖峰 市来瑞希

【計2名】

修養科第983期修了

(立教186年7月27日修了)

本幹 宮地あやか
本幹 宮地はるか

【計2名】

をびや許し

(立教186年6月分)

大隅聖峰 油木田聖子

【計1名】



教会長登殿参列

【登殿参列係】

- 8月26日月次祭登殿参列者(教会名)
 本花・本邦・与島・本豊後・本肥・那波・本葵・吉峰・國船・大英峰・本平濱・本東(あと3教会の空きがあります。希望する教会はお知らせ下さい。合計15名)
- 登殿参列の流れ
 1. 詰所で教服を着用し、午前7時30分写真の間集合。諸説明後、バスにて出発。
 2. 西境内地の登殿受付建物より入場
 3. 直属ごと神殿へ参進(西廻廊を経由し、西礼拝場より登殿)
 4. 神殿結界内にて着席
 5. 神殿講話終了後、教祖殿へ参進(徒歩は東廻廊。車椅子は西廻廊)
 6. 教祖殿御用場にて教祖ならびに祖霊様礼拝
 7. 内統領または表統領よりごあいさつ
 8. 登殿受付建物へ移動、詰所へ戻り写真の間にて解散
- ※教服の貸出はありませんので、各自でご用意ください
- 該当月に登殿参列が出来ない場合は、一覧を本島詰所に掲示しておりますので、各自で交代の話し合いを行い、決まった後は必ず登殿参列係へお知らせ下さい。
- 登殿参列係：平井真治郎役員

9月「にをいがけ強調の月」

【布教部】

「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」全教会提出を目指して、本年未提出教会には布教部より相談させていただきます。



第33回総会と夏のつどい



【少年会本島団】

- 立教186年少年会本島団総会と夏のつどい
- 期日：8月21日(月)
 午前10時受付～午後9時解散
 - 会場：本島大教会
 - 対象：少年会員(未就学の少年会員には引率者の付き添いをお願いします)
 - 参加御供：1,000円
 - 携行品：ハッピ(準備できる人だけで結構です)、健康保険証、マスク、帽子、タオル、お風呂道具、着替え、ビーチサンダル、水着
 - 諸注意：発熱、体調不良の場合は参加をご遠慮ください。引率者の中で可能な方は海水浴の監視をお願いします。宿泊はそれぞれの部屋でお願いします。プログラム途中までの参加でも可能です。

学生会サマーキャンプ

【本島学生担当委員会】

- 期間：8月17日(木)～19日(土)
- 会場：本島大教会
- 内容：あらしとろうりょう入門塾、ひのきしん、海浜行事ほか
- お問合せ：雲庵春彦担当委員長

ダンディーキャンプ

【青年会本島分会】

- 日時：9月9日(土)午前10時集合
 9月10日(日)午後4時解散
- 会場：本島大教会
- 参加御供：1,000円
- 趣旨：青年会員同士の親睦と本島の魅力を味わう

大教会8月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

大教会8月月次祭ライブ中継は諸事情により休止いたします。次回は9月22日ライブ中継を予定しております。

3代会長片山俊次30年祭



【総務部】

- 本島大教会3代会長片山俊次主30年祭
 3代会長夫人片山コズエ刀自20年祭
- 日時：10月21日(土)午後2時執行
 - 場所：本島大教会
 - タイムスケジュール
 - 9:00 墓前祭
 宮森与一郎先生ご到着
 - 13:15 おつとめ奉仕者集合
 - 13:30 祖霊殿開扉・献饌
 - 14:00 神殿の儀 てをどり
 祖霊殿の儀
 大教会長あいさつ
 記念撮影
 徹饌
 タづとめ・お願いづとめ
 直会
 後片付け
- 尚、翌日の秋季大祭において宮森与一郎先生より神殿講話を頂きます。
- 婦参報告は直轄教会ごと取りまとめ、9月18日まで大教会総務部へご提出ください。郵送、ファックス可
 - 婦参報告書は本島ドットコムよりダウンロードできます。

ようぼく研修会

【布教部】

- 日時：10月25日(木)
 18:30～20:00
- 会場：本島詰所4階講堂
- 参加御供：500円(但し修養科生、講習生、学生は無料)
- 講師：金山元春先生(天理大学教授)
 『人と関わる知恵』

ようぼく一斉活動日

【ようぼく一斉活動日直属担当】

- 第1回：10月29日(日)各支部にて
- 「ごあんないチラシ」「参加カード」を各教会へ全ようぼく数分を配布しました。
- 参加カードには、直属教会番号「36」、直属教会名「本島」とご記入ください。

<https://www.honjima.com/>



は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード